

『履歴書・教育研究業績書』記入例

(その1)

(No. 1)

履 歴 書 《記入例》				
フリガナ	カワゴエ イチロウ	(男)・女	生年月日(年齢)	19××年 ××月 ××日 (満××才)
英字氏名	Kawagoe Ichirou			
氏名	川越 一郎			
国籍	記入不要	現住所	〒 ××県××市××区×× ×-×-× 電話番号/携帯電話番号 ×××××/×××× E-mail アドレス ××@××××××××	
学 歴				
年 月	事 項			
19××年 3月	××大学××学部卒業 (1) 参照			
19××年 4月	××大学大学院××研究科修士課程入学			
19××年 3月	××大学大学院××研究科修士課程卒業(××学修士学位を取得)			
19××年 4月	××大学大学院××研究科博士課程入学			
19××年 3月	××大学大学院××研究科博士課程単位取得満期退学 (3) 参照			
20××年 3月	××大学・博士(××学)学位を取得 (5) 参照			
20××年 ×月	××士資格認定協会「××士」(登録番号第××号) (5) 参照			
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: fit-content;">年月日は、西暦で記入してください。</div>				
<p>『学歴』の欄 … 記入上の注意事項</p> <p>(1) 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する方は、これらの学歴のすべてについて記入してください。その他の方は、最終学歴について記入してください。なお、学位、称号等についても同欄に記入してください。 例：商学研究科修士課程修了（商学修士）</p> <p>(2) 中途退学であっても省略せずに記入してください。</p> <p>(3) 博士課程を出て未だ博士号を取得していない方は、「博士課程単位取得満期退学」と記入してください。</p> <p>(4) 大学の別科、専攻科については『学歴欄』に、研究生、聴講生等は『職歴欄』に記入してください。</p> <p>(5) 学位・称号を記入してください。</p> <p>(6) 外国における資格については正確に記入するとともに、その資格の内容について併記してください。</p> <p>(7) 外国留学については、学生としての留学の場合は『学歴欄』に、研究者としての留学の場合は『職歴欄』に記入してください。</p>				

『履歴書・教育研究業績書』 記入例

(No. 2)

職 歴	
年 月	年 月
19××年×月 19××年×月 19××年×月 19××年×月 19××年×月	A大学講師(××学) (1)～(4)参照 A大学助教授(××学) A大学教授(××学)(～19××年×月) B大学△△学部教授(××学)(～現在に至る) B大学△△学部長(現在に至る)
『職歴』の欄… 記入上の注意事項	
(1) 職歴のすべてについて在職期間が明確になるように記入し、職名・地位等についても明記してください。 (2) 現職については必ず「現在に至る」と明記し、また、自営業、主婦、無職等についても省略せずに記入してください。 (3) 大学の教員の職歴については、主な担当科目を()で付記してください。 (4) 担当科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。 (例 看護学科の教員で看護婦の経歴がある方の当該看護婦時の勤務病棟等)	
文部科学省 教員審査歴	
(前審査) 19××年×月 20××年×月	[大学設置・学校法人審議会(旧大学設置審議会を含む)教員組織審査判定] (5)参照 ××大学××学部の設置申請に伴う、教員資格審査において、××学Ⅰ、××学Ⅱ、××演習担当の専任・教授として適格判定。 ××大学××大学院××研究科の設置申請に伴う、教員資格審査において、××学Ⅰ、××学Ⅱ、××演習担当の専任・教授として⊕判定。 (5)(6)参照 (5) 過去における大学設置・学校法人審議会(旧大学設置審議会を含む)の教員組織審査において教員の資格があると認められている者は、同欄に当該教員組織審査に係る大学名、審査の年月、専任・兼任・兼任、職名及び担当授業科目名を記入してください。 (6) 大学院にあっては、判定結果「マル合・合・可」を記入してください。 ※ 過去に新設の大学、短期大学、若しくは新学部、新研究科等に所属されていた方(新大学等の設置認可申請時に専任教員として就任された方、若しくは新大学等の設置認可、開設の後、学年進行が完成するまでの間に専任教員として就任された方)は、「大学設置・学校法人審議会(旧大学設置審議会を含む)」の教員組織審査を受けられた可能性があります。お手数ではございますが、お心当たりがございましたら、前任校にお問い合わせください。

『履歴書・教育研究業績書』記入例

(No. 3)

学会及び社会における活動等	
年 月	事 項
現在所属している学会	所属する学会の名称を記入してください。
19××年 ×月 20××年 ×月	<p><学会活動> ××学術会議××学研究連絡委員（～20××年×月） 日本××学会（現在に至る）</p>
19××年 ×月 20××年 ×月	<p><社会活動> 国立××センター倫理審査委員（現在に至る） 大学入試センター専門委員会××部会長（現在に至る）</p>
<p>『学会及び社会における活動等』の欄 … 記入上の注意事項</p> <p>(1) 本人の専攻、研究分野等に関連した事項について「学会活動」、「社会活動」等に分けて記入してください。なお、教育研究上の業績を有する場合は、その内容も具体的に記入してください。</p> <p>(2) 所属学会名は正確に記入してください。</p> <p>(3) 『職歴』欄と同様に所属期間及び現在も所属しているものについては「現在に至る」と記入してください。</p>	

『履歴書・教育研究業績書』記入例

(No. 4)

賞 罰				
年 月	事 項			
19××年×月	××研究奨励賞 (『×××論』による)			
職 務 の 状 況				
勤 務 先	職 名	学部等又は所属部局の名称	担当授業科目の名称	備 考
東京国際大学	教授	××学部 ▲▲学科	××××A	
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> 記入日現在における職務の状況について記入してください。 </div>			××××B	
			演習(3)	
			演習(4)	
			△△△△	
■■大学	非常勤講師	大学院 ○○研究科 ●●学専攻	××××	
××庁××局 ××研修所	客員研究官		研究指導	
上記のとおり相違ありません。				
20××年 ××月 ××日				
氏 名 川 越 一 郎				印

『履歴書・教育研究業績書』記入例

(その2)

(No. 1)

教育研究業績書《記入例》

20××年××月××日

氏名 川越一郎 (印)

研究分野	研究内容のキーワード	
(研究分野の主なものを3つ以内に簡潔に記入してください) ※実務者は「〇〇に関する実務」と記入してください	(研究内容を表すキーワードを5つ以内に簡潔に記入してください) ※実務者の場合は職務内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください	
教育上の能力に関する事項	年月日	概要
<p>＜担当授業科目に関する「教育上の能力に関する事項」を年月日順（過去→現在）に簡潔に記入してください。＞</p>		<p>それぞれ概要の欄は明確かつ簡潔にご記入ください。</p>
<p>1 教育方法の実践例</p> <p>1) ××学術情報セミナー</p> <p>2) ゼミナールの対抗討論会</p> <p>3) ××省学習指導要領に協力</p> <p>4) 視聴覚教材による研修教育</p>	<p>19××年×月～ 19××年×月</p> <p>20××年×月×日</p> <p>20××年×月×日</p> <p>20××年×月×日</p>	<p>全国××・××センターの×機関を組織して、国公私立大学の研究者・図書館員に対して、文献・情報のデータベースの利用方法に関するセミナーで、利用方法の開発を行った。</p> <p>××学院大学、△△大学とのゼミ対抗討論</p> <p>××省の〇〇教育は、学習指導要領によって、管理されている。そのための基準改良に協力してきた。通常の冊子体の資料よりは、最近の人々には視覚的な教材が望ましいので、ビデオの教材を作成した。</p>
<p>「1. 教育方法の実践例」 … 記入上の注意点</p> <p>概要欄に、①教えた機関（大学名等）、②科目、③常勤・非常勤の別などの記載とともに、導入した独自の教育方法の実践例を記入してください。</p> <p>例1 優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容のweb上での公開等</p> <p>例2 教育機関や社会人講座、企業研修などでの教育経験</p>		
<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>1) ××文献情報の現状と利用方法</p> <p>2) 『××概説』</p>	<p>20××年</p> <p>20××年</p>	<p>××センターの教官を動員して、教材としての様式を確立した。</p> <p>同書は大学の〇〇課程向けの教科書として作成され、以後現在に至るまで、版を重ねている。</p>
<p>「2. 作成した教科書、教材」 … 記入上の注意点</p> <p>作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要（後の『著書、学術論文』との重複も可。その場合「(再掲)」と表示してください。</p>		

『履歴書・教育研究業績書』記入例

(No. 2)

3 当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価		
* 「20××年度・授業評価アンケート」	20××年	学生による授業評価アンケートにおいて高い評価を得た（授業内容にほぼ満足と回答した学生が8割を占めた。）
* 自己点検・外部評価	20××年	（評価内容）

「3. 教育上の能力に関する大学等の評価」の欄 … 記入上の注意事項

ご自身の教育上の能力に関する客観的評価を記載してください。

- 例1 各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価の内容）
- 例2 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
- 例3 学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの
- 例4 学外の評価機関等が行った評価
- 例5 上記以外で、学長、学部長、学内諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載）等

4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 企業内での研修会、セミナー	20××年	〇〇、〇〇、〇〇、〇〇等各種研修の講師 〇〇、〇〇、〇〇、〇〇等各種セミナーの講師
2) ××（株）××部××課	20××年	課長として部下の育成・指導

「4. 実務の経験を有する者についての特記事項」 … 記入上の注意事項

- 例1 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（看護・福祉実習・企業実習等）
- 例2 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要
- 例3 その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等を広く記載してください。

5 その他		
-------	--	--

「5. その他」の欄 … 記入上の注意事項

- 1 から 4 に該当するもの以外の事項について幅広く記入してください（下記項目例を参照）。
- （「5. その他」の欄の項目例）
- 例1 大学教育改善に関する団体等での活動の概要
 - 例2 教育実績に対する受賞歴等

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
< 担当授業科目に関する「職務上の実績に関する事項」を年月日順（過去→現在）に簡潔に記入してください。 >		

1 資格、免許		
1) TOEIC ××点 2) 外国弁護士資格等		「1. 資格、免許」 … 記入上の注意事項 資格について、担当する教育の内容に関するものなど、特に審査に関連すると思われるものについて記載してください。

2 特許等		（特許の内容を記載）
1) ××に関するシステム及び認証方法 2) ××装置	20××年×月×日出願 20××年×月×日出願	特許第×××××号 △△と共同出願 特許第×××××

「2. 特許等」 … 記入上の注意事項

本人の担当する教育内容等に関連した事項について記載してください。

『履歴書・教育研究業績書』記入例

(No. 3)

<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) ××(株)法務部××課</p> <p>2) ○○(株)○○部</p> <p>3) ○○(株)○○部</p> <p>4) △△検討会、△△審議会、△△研究会</p>	<p>20××年～×月 ～ (×年間)</p> <p>20××年～×月 ～ (×年間)</p> <p>20××年～×月 ～ (×年間)</p> <p>20××年～×月 ～ (×年間)</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>担当授業科目等に関連する取引、プロジェクト、社内業務において果たした役割、契約書作成・交渉等について記載してください</p> </div> <p>△△課長（独占禁止法担当）として、主に以下の訴訟を担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○（20××年×月～20××年×月） （内容、結果等を記載） <p>××部長として、債権回収業務を担当</p> <p>○○部長として、以下のプロジェクト契約をとりまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○（20××年×月～20××年×月） （内容、結果等を記載） <p>委員として活動</p>
--	---	--

「3. 実務家教員についての特記事項」 … 記入上の注意事項

実務経験の記載方法については、「職歴」欄に記載した事項を中心に、担当する授業科目に対応した下記の事項等を参考に記載してください。

- ① 従事した期間
- ② 職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか）
- ③ 成果、結果

（職務上の実績の項目例）

- 企業、官公庁等の研究者の場合
 - ・ 開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要
 - ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要・成果・当該研究者の役割
- その他、企業・団体等関係者
 - ・ 国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績
- 情報技術者関係の場合
 - ・ コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法、ソフト・システム開発歴）
- マスコミ関係者の場合
 - ・ 執筆した記事の概要
 - ・ 作成した番組の概要
- 医師や看護師等医療技術者の場合
 - ・ 症例研究会での発表等の活動
- 福祉その他社会活動の関係者の場合
 - ・ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位
- スポーツ等実技関係者の場合
 - ・ 指導者としての経歴・実績・資格
- 芸術関係者の場合
 - ・ 作品の概要
- 博物館、美術館等関係者の場合
 - ・ 担当した展覧会の概要
 - ・ 執筆・監修した展覧会図録の概要
- その他全般を通じて

<p>4 その他</p>		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1～3に該当するもの以外の事項について幅広く記入してください。</p> </div>
--------------	--	--

『履歴書・教育研究業績書』記入例

(No. 4)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

「著書」「学術論文」及び「その他」の順に区分し、それぞれ年月日順に(過去→現在)に、各区分ごとに番号を付して記入してください。

(著書)				
1. 『××統計方法論』	単著	19××年×月	×波書店 (××研究叢書)	××共和国成立以降の××調査の方法とそのデータの信頼性を 19×× 年代迄について吟味検討している。総頁数：200 頁
2. 『×××研究』	共著	19××年×月	××大学××研究所 日本××文献センター (××資料シリーズ No. 28)	日本の社会××統計を企業等研究者がどのように使用しているかをアンケート調査し集計解析している。 P. △△～△△執筆 (共著者 ○○○○・××××)
3. 『×××』	共著	20××年×月	○○書店	企業の国際取引に関する概説書 (共著者 ○○○○・××××) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4. 『△△に関する手引書』	単著	20××年×月 出版予定	△△書店	国際取引に関する手引書 【出版予定の場合は、「出版証明書」が必要】
(学術論文)				
1. 「××の全国××調査の最近の××統計資料」	単著	19××年	『××経済』1-8	×××の全国△△調査による収穫統計調査の方法について文献紹介とその問題点の検討を行っている。
(その他)				
1. △△の研究座談会		19××年		担保法の○○に関する座談会を主催
2. ○○マニュアル		19××年		○○(株)の知的財産管理に関する○○マニュアルを作成

「著書、学術論文等の名称」… 記入上の注意事項

- 著書等は、『 』で囲い、学術論文は「 」で囲んで統一してください。
また、発行所は無囲いとし、発表雑誌等又は発表学会等の名称は、『 』で統一してください。
- 「概要」には、著書、学術論文等の概要及び頁数について、各著書、学術論文等ごとに明確かつ簡潔に 200 字程度で記入してください。
- 単著について、学術誌等の場合は掲載頁（例：p○○～p○○）、単行本の場合は総頁数を記入してください。
共著の場合は、ご自身の担当部分の概要及び掲載頁（例：p○○～p○○）を明記し、また、**ご自身の氏名を含め著作者全員の氏名を当該著書、学術論文等に記載された順に記入してください。**
(例：編者△△△△、分担執筆○○○○、□□□□、××××)
なお、共著の場合でご自身の担当部分を明確にできないときは、その理由を明記してください。
(例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
また、筆頭論文である場合は、その旨明記してください。
- 一冊の本を数人で執筆した場合は当該部分が単著であっても共著として記入してください。
- 学位論文については、その旨が明確になるように記入してください。
- 発表学会誌等は、その名称の他、巻・号等まで明記してください。
- 著書、学術論文等で発行又は学会誌等での発表予定のものについては、その旨を明記し、出版社や学会からその旨の**証明書(出版証明書等)**を添付してください。なお、書類提出時以降に投稿予定のものは含めないでください。
- 「作曲」に係る業績については、出版の日付と発行所及び初演の日付と会場を記載（再演は不要）してください。また、「美術」に係る業績については作品を提出する場合は、別途 1 部用意してください。なお、作品集については返却可能ですので、提出時にその旨を申し出てください。